
富山・石川・福井県民の マイクロツーリズムに対する意識調査

2020年12月2日



DBJ 日本政策投資銀行
Development Bank of Japan

北陸支店・富山事務所

1. 要旨

- 日本政策投資銀行北陸支店・富山事務所では、withコロナの状況が続くなかでの観光振興のひとつの処方箋として提唱されている「マイクロツーリズム(居住地近隣への観光)」に着目し、北陸3県(富山・石川・福井)在住者の意識や行動、今後のあり方などについて調査を行った。
- 本調査では、今年5月末の緊急事態宣言解除後、10月にかけて北陸3県の在住者でも**観光や行楽に出かける人が増加**していることが確認出来た。一方、新型コロナに対する警戒は依然強く、観光に出かける際には、**新型コロナ感染対策に配慮して行動している人が多い**ことも分かった。
- 訪問先では、自県内には比較的多くの人が出かけているものの、遠隔地だけではなく、近隣県への訪問は低調となっている。一方、観光客を受け入れる立場からみると、首都圏などからの来訪に比べて、近隣県からの来訪は歓迎したいとの人の割合は多い。自らが近隣県に観光に行くことには慎重なとは対照的に、**近隣県からの観光客の受け入れには比較的前向き**となっており、意識のギャップがある。既に一部で取り組みが行われているが、マイクロツーリズムの振興には、**北陸3県で協力し、互いに近隣県への往訪を促す取り組み**が重要だと考えられる。
- 北陸3県内で観光に出かけた人の感想を聞くと、満足したとの回答が多く、withコロナのなかでも多くの人が旅行を楽しんでいる。また地域の魅力を再発見した、などの回答が一定数みられ、**多くの人が新型コロナ終息後も、観光に訪れたいと回答**している。
- 政府のGo Toキャンペーンや各県の観光支援策については、宿泊を伴う旅行に出かける決め手になったとの回答が6割を占め、需要喚起に繋がっている。1回当たりの支出額は、宿泊を伴う方が多く、宿泊を伴うマイクロツーリズムを促す取り組みが重要だと考えられる。

2. 調査概要

【調査概要】

○ 調査対象

富山、石川、福井県在住の18歳以上の男女(最高齢の回答者は83歳)

各県それぞれ男女各200名ずつ、合計1,200名。年齢階層も各年齢層で均等になるように設定

インターネットによる回答(実際委託先:楽天インサイト)

○ 調査時期

2020年10月30日～11月2日の3日間

【備考】

○ 注記ないグラフ等のデータは、今回の当行の調査による

○ 各県内の地域割は以下の通り

富山県 呉東:富山市、滑川市、上市町、立山町、舟橋村、魚津市、黒部市、朝日町、入善町

呉西:高岡市、射水市、氷見市、砺波市、小矢部市、南砺市

石川県 加賀:金沢市、白山市、小松市、加賀市、野々市市、能美市、かほく市、津幡町、内灘町、川北町

能登:七尾市、輪島市、羽咋市、珠洲市、志賀町、宝達志水町、能登町、穴水町、中能登町

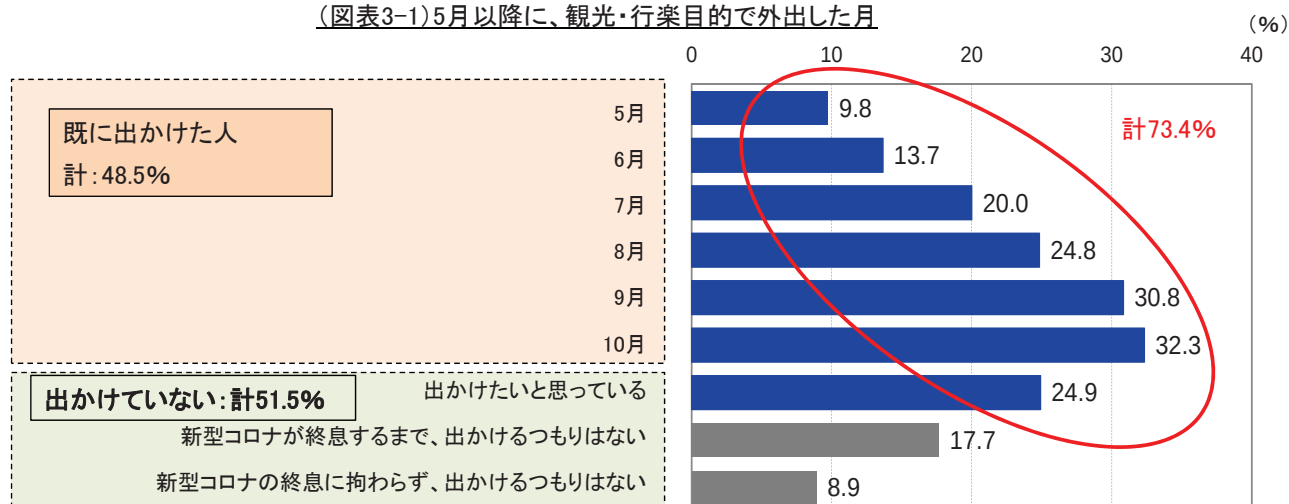
福井県 嶺北:福井市、永平寺町、あわら市、坂井市、大野市、勝山市、鯖江市、越前市、池田町、南越前町、越前町

嶺南:敦賀市、美浜町、若狭町、小浜市、高浜町、おおい町

3. 観光・行楽目的の外出が増加傾向、全体の半分が既に出かけている

- 5月の緊急事態宣言の解除後、北陸3県の在住者でも観光・行楽目的での外出した人が増加傾向にあり、10月は約1／3が外出したと回答した。10月末までの時点で、全体の半分弱(48.5%)が、観光・行楽目的で平均2.7回、外出している。
- 一方、これまで出かけていない人も約50%いるが、約25%は「出かけたい」と回答しており、全体の3／4が観光・行楽目的での外出に前向きとの結果となった。

(図表3-1)5月以降に、観光・行楽目的で外出した月

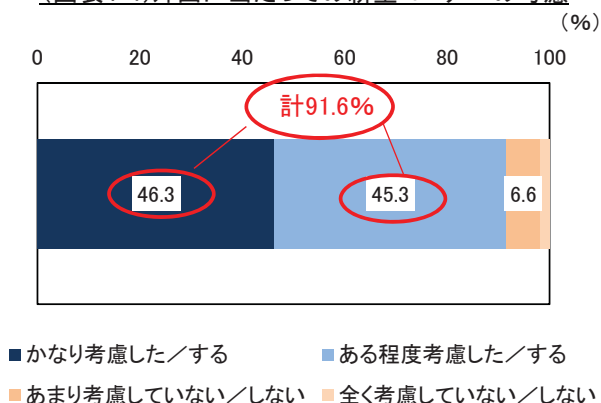


(備考) 回数は問わず、観光、行楽目的で外出した月を選択(複数回答)、回答総数1,200名

4. 新型コロナへの警戒は続く

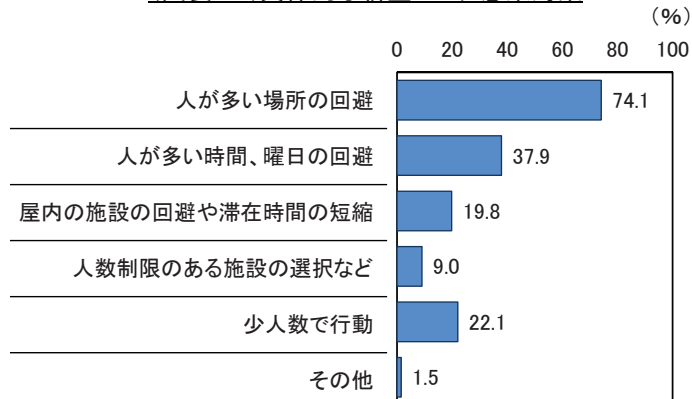
- 9割以上の人が出外に当たって、新型コロナへの感染対策を考慮した(する)と回答しており、新型コロナへの警戒が続いている。
- 具体的な感染対策としては、人が多い「場所」や「時間」を避けたとの回答が多く、いわゆる3密を避ける行動がとった(とるつもり)人が多くなっている。

(図表4-1)外出に当たっての新型コロナへの考慮



(備考) 出かけた、または出かけたいと思っていると回答した人、回答総数881人

(図表4-2)具体的な新型コロナ感染対策

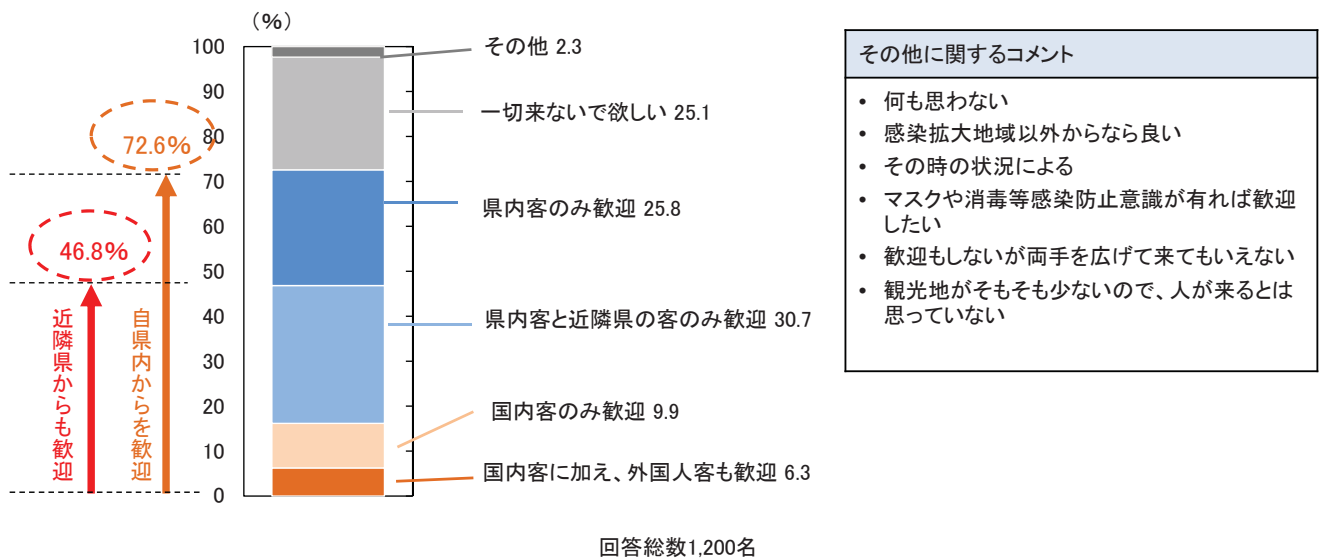


(備考) 2つまでの複数回答、回答総数1,200名

5. 近隣からの観光客の来訪は歓迎したい、との人が多い

- コロナ禍が続くなか、居住地の近隣への観光客の来訪については、遠隔地からの来訪まで含めて歓迎するとの回答は限定的となっている。一方、自県内からの観光客については7割以上が歓迎、近隣県まで広げても、半数近い46.8%が歓迎すると回答している。

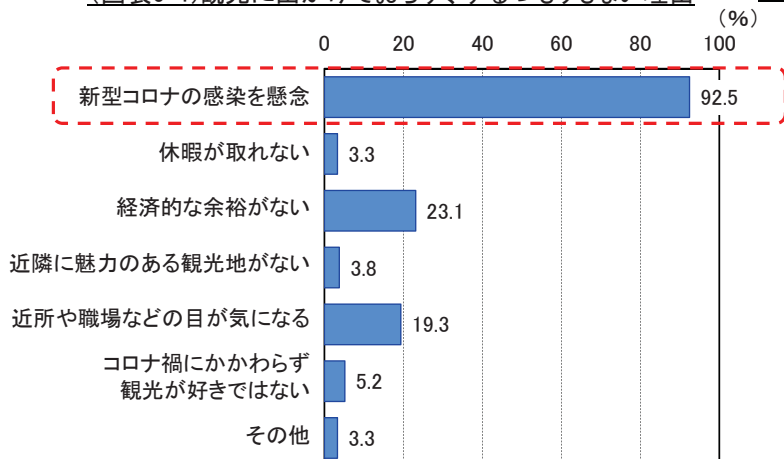
(図表5-1)居住地の近隣への観光客来訪をどこまで歓迎するか



6. 出かけていない人は、新型コロナの感染を強く警戒

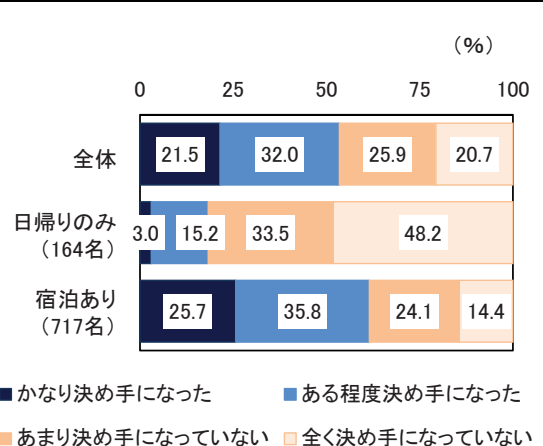
- 観光や行楽に出かけていない人では、9割以上が新型コロナ感染の懸念を理由にあげている。そのほかでは、経済的な理由や近所や職場の目が気になるとの答えも多かった。
- 政府のGo toキャンペーンや各県の観光支援策については、観光に出かける決め手になったという答えと、決め手にならなかったという答えがきつ抗した。宿泊を伴う旅行に行った回答者は、6割が決め手になったと回答しており、宿泊を伴う観光には、政策の効果が認められる。一方、日帰り旅行のみの場合は、8割以上が決め手になっていないと回答した。

(図表6-1)観光に出かけておらず、するつもりもない理由



(備考) 1. 2つまでの複数回答、2. 回答総数212名

(図表6-2)観光に出かけた場合、政府や自治体の支援策

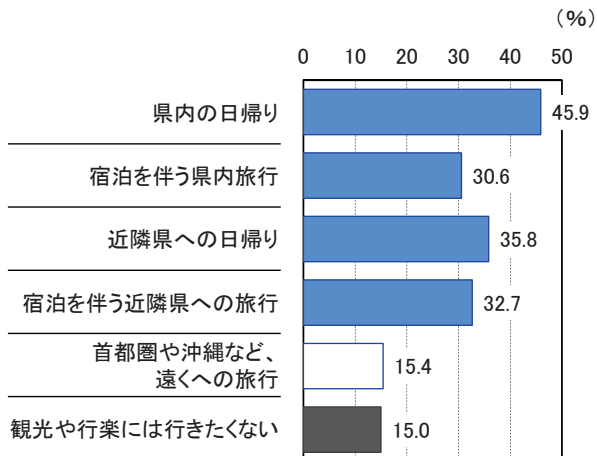


(備考) 回答総数881名

7. withコロナのなか、近場への旅行を好む人が多い

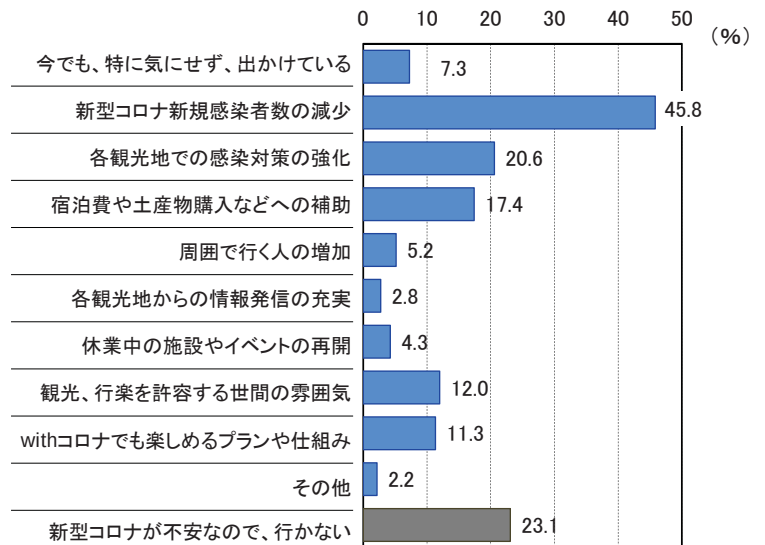
- withコロナの状況では、県内や近隣県への日帰り観光を好む人が多い。また県内や近隣県に限れば、宿泊を伴う旅行でも、比較的抵抗が少ない様子がうかがえる。
- 観光、行楽により積極的になるには、新規感染者数の減少が必要との意見が多く、感染対策などだけでは安心できないと考えている人が多いことが分かる。

(図表7-1)withコロナの状況で、行きたい観光の種類



(備考) 当てはまるもの全て、回答総数1,200名

(図表7-2)観光、行楽に積極的に出かけるための必要条件

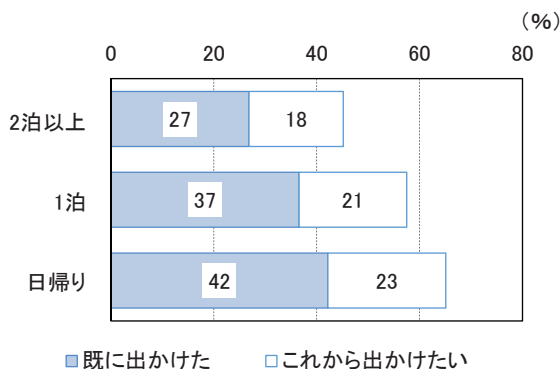


(備考) 2つまでの複数回答、回答総数1,200名

8. 日帰り旅行が多いものの、27%が2泊以上の旅行に出かけている

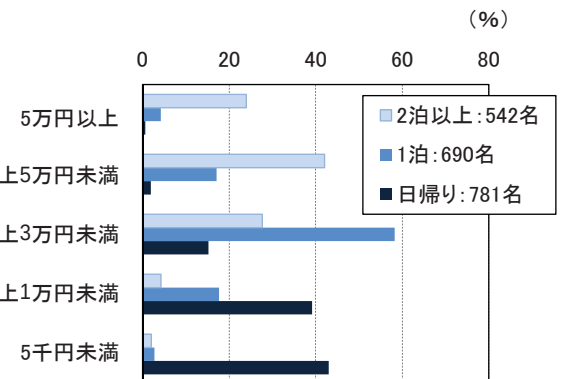
- 出かけた日数としては、期間が短いほど、出かけたとの回答が多いものの、観光・行楽に出かけなかった人も含む全回答者のうち、27%が2泊以上したと回答している。
- 1回当たりの支出額は、出かける日数が長くなるほど増加する。2泊以上では、出かけた(また出かけた)人のうち、2/3が1人当たり3万円以上を支出した(する予定)と回答しており、観光消費による経済効果の観点からは、宿泊を伴う長い日数の観光を促すことが重要であるといえる。

(図表8-1)2020年5月以降に観光・行楽に出かけた日数



(備考) 複数回答、分母は観光に出かけていない人も含めた1,200名

(図表8-2)1回当たり1人当たりの支出額

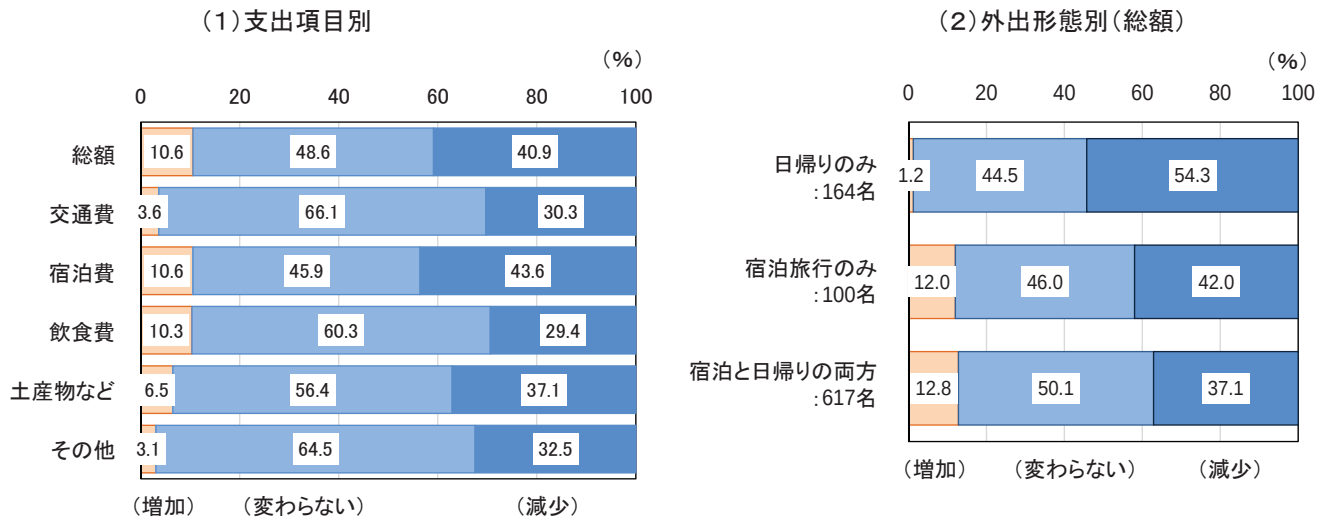


(備考) 分母は、それぞれの日数で出かけた人または出かけようと思っている人

9. 支出額は前年までと比べて減少

- 観光や行楽への支出額をみると、全ての支出項目で、遠隔地への訪問が減ったことや政策的なサポートにより、総額でみて4割の回答者が支出が減少したと回答した。ただし、コロナ禍による景気の悪化や政策的なサポートがあったにも拘わらず増加した回答者も1割みられた。
- 外出形態別では、日帰りのみの外出をした人では、増加したとの回答は殆どみられず、減少したとの回答が半数を上回った。一方、宿泊を伴う旅行に出かけた人では、1割以上が増加したと回答した。

(図表9-1)観光・行楽の支出額(前年までとの比較)

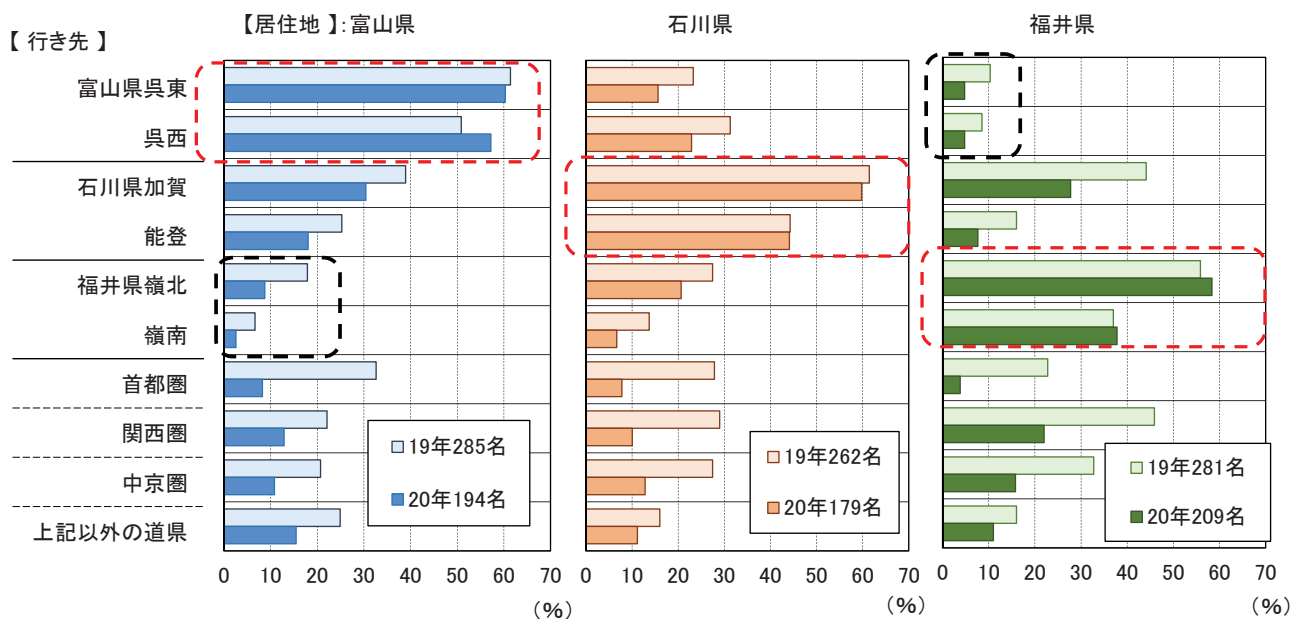


(備考) 1. 回答総数881名、2. 一人当たりの総額。各種補助を除いた実際に支払った金額。

10. 北陸3県内の他県への訪問に需要喚起の余地

- 行き先のシェアをみると、各県とも自県内は19年と20年で大きな変化はみられない一方、福井県在住者の石川県加賀地方への訪問などのように、北陸3県内であっても、他県への訪問は低下している。また、コロナ禍以前から、福井県と富山県の間への往訪は相対的に少なく、需要喚起の余地があると考えられる。そのほか、3大都市圏への訪問は、首都圏を中心に大きく低下していることが確認出来る。

(図表10-1)出かけた人の居住地別行き先



(備考) 1. 分母は各年各県の出かけた人、2. 2020年は、5月末の緊急事態宣言解除後から10月まで間の6ヵ月

11. 北陸3県への旅行は、従前から自家用車、レンタカーの利用が多い

- 北陸3県への旅行は、県外も含めて従来から自家用車、レンタカーの利用が多い。3大都市圏への旅行では、19年は新幹線や特急などの利用が多かったが、20年は新型コロナへの警戒から、自家用車などで移動する人の割合が多くなっている。

(図表11-1)居住地別行き先別交通手段

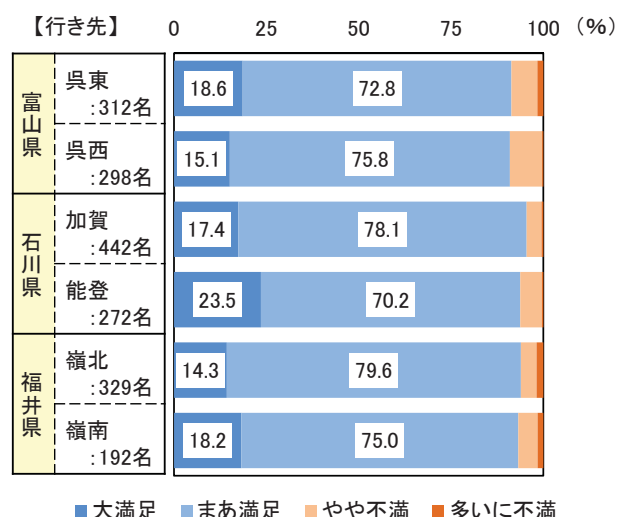
【2020年】											【2019年】										
居住地別 交通手段		富山県		石川県		福井県		首都圏	関西圏	中京圏	富山県		石川県		福井県		首都圏	関西圏	中京圏		
		呉東	呉西	加賀	能登	嶺北	嶺南				呉東	呉西	加賀	能登	嶺北	嶺南					
富山県	自家用車、レンタカー	106	105	50	34	17	4	7	14	16	159	136	101	69	48	15	22	28	37		
	新幹線、特急など	4	3	5	1	1	1	9	14	4	5	3	3	1	3	3	68	28	6		
	高速バスなど	13	9	7	2	2	2	2	1	4	17	12	11	4	3	2	15	14	20		
	回答数	117	111	59	35	17	5	16	25	21	175	145	111	72	51	19	93	63	59		
石川県	自家用車、レンタカー	27	38	102	75	35	11	4	12	21	55	78	151	109	68	34	15	40	56		
	新幹線、特急など	0	0	1	1	0	0	10	5	2	1	1	2	1	0	0	57	33	13		
	高速バスなど	3	3	5	4	2	1	0	2	1	6	3	10	8	6	2	12	9	9		
	回答数	28	41	107	79	37	12	14	18	23	61	82	161	116	72	36	73	76	72		
福井県	自家用車、レンタカー	9	8	56	16	117	74	1	31	29	20	21	111	38	147	95	11	72	68		
	新幹線、特急など	0	2	1	0	1	3	7	12	1	7	3	7	4	7	3	50	53	19		
	高速バスなど	1	0	3	0	7	2	4	9	4	4	0	11	4	10	9	11	25	16		
	回答数	10	10	58	16	122	79	8	46	33	29	24	124	45	157	104	64	129	92		

(備考) 1. 調査対象は、各県それぞれ400人、2. 2020年は、5月末の緊急事態宣言解除後から10月までの6ヵ月

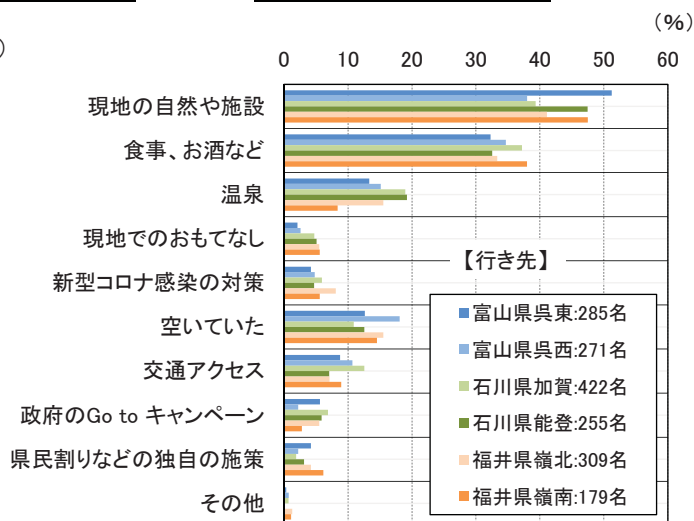
12. 観光に出かけて良かったのは、自然や施設、食事

- 20年5月以降に、北陸3県に観光・行楽に出かけた人では、9割以上が大満足またはまあ満足と回答しており、新型コロナへの感染に警戒しつつ、旅行を楽しんだことが分かる。
- 特に良かった点としては、現地の自然や施設、食事、お酒などの回答が多く、温泉がこれらに次いだ。行き先の県、地域別の大きな特徴はみられなかったが、従来から各地にある名所・名産を楽しんだ人が多かったものとみられる。

(図表12-1)2020年5月以降に観光・行楽に出かけた場合の満足度



(図表12-2)特に良かった点

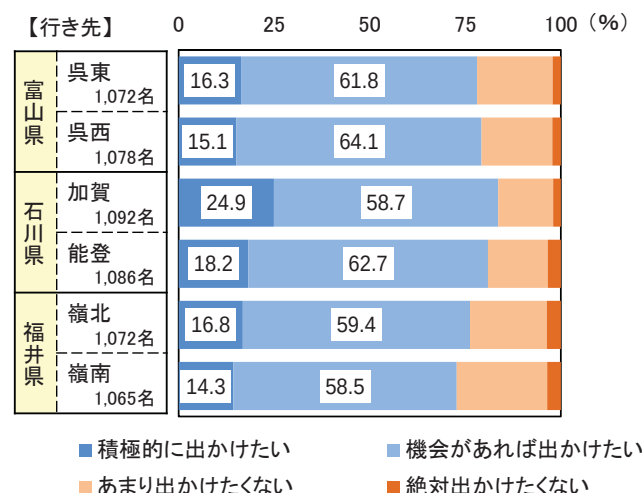


(備考) 2つまでの複数回答

13. 多くの人が新型コロナ終息後も北陸3県を観光に訪れたいと回答

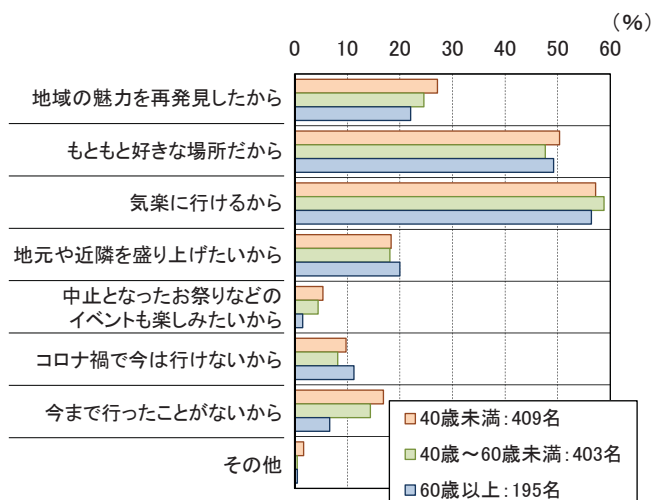
- 新型コロナ終息後も、多くの人が北陸3県内を観光、行楽に訪れたいと回答しており、ベースとしての地元からの需要があることが確認出来る。
- 理由としては、「気軽に行けるから」のほか、「もともと好きな場所だから」や「地域の魅力を再発見した」との回答も多かった。年齢階層別では、40歳未満の若い世代で、「地域の魅力を再発見したから」や「今まで行ったことがないから」との回答が多かった。

(図表13-1)新型コロナ終息後の北陸3県への往訪意向



(備考) 新型コロナに関係なく、当該地域に観光・行楽には行かない人を除く

(図表13-2)新型コロナ終息後、北陸に行きたい理由



(備考) 2つまでの複数回答

14. 再発見した地域の魅力の具体的内容(自由記述)

(図表14-1)再発見した地域の魅力

富山県	石川県	福井県
- 宇奈月セレネ美術館 - 宇奈月温泉 - チューリップ公園 - 富岩運河環水公園 - 立山黒部アルペンルート - 黒部峡谷、トロッコ列車 - 氷見の番屋街、寒鰯などの魚介 - 砺波 夢の平、コスモス畑 - 魚津水族館 - 地酒 - 八尾の町並み - 入善の牡蠣 - 蒲鉾 - 小矢部のアウトレット - 雨晴海岸	- 兼六園、21世紀美術館、近江町市場など - 白山 - 津幡 森林公園 - 加賀温泉郷 - 白山スーパー林道、のと里山海道などでのドライブ - 能登の温泉、水族館 - 輪島の朝市 - 海鮮などの食べ物 - 輪島キリコ会館 - 能登の豊かな自然 - 珠洲の海水浴 - 禄剛埼灯台	- 恐竜博物館 - 永平寺 - 東尋坊 - 三方五湖 - 芦原温泉 - 小浜線の車窓 - 海鮮などの食べ物 - 大野市などのキャンプ場 - 地酒

15. 新型コロナ終息後の北陸3県に行きたい理由(居住地別)

- 「気楽に行ける」、「地元を盛り上げたい」といった理由では、居住する県の選択割合が高い。一方、「地域の魅力を再発見」では、県外の選択割合も高く、近隣県に行って、改めて魅力に気づいた人も多かったとみられる。また、「もともと好きな場所」では、金沢を含む石川県加賀や能登が、富山県や福井県在住者でも多かった。

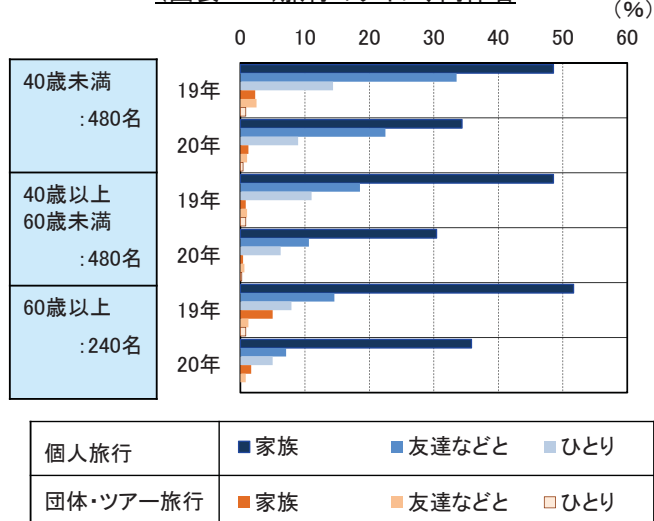
(図表15-1)新型コロナ終息後の北陸3県に行きたい理由

居住地	訪問先	地域の魅力を再発見したから	もともと好きな場所だから	気楽に行けるから	地元や近隣を盛り上げたいから	中止となったお祭りなどを楽しみたいから	コロナ禍で今は行けないから	今まで行ったことがないから	その他	
富山県	富山県	呉東	20.7	26.2	50.8	15.1	2.3	4.6	1.6	1.0 %
		呉西	14.7	26.4	49.5	17.6	2.6	5.2	1.6	1.0 %
	石川県	加賀	14.8	39.5	37.5	7.9	2.6	9.5	2.6	0.0 %
		能登	16.2	36.8	34.4	7.6	2.4	8.9	4.8	0.3 %
	福井県	嶺北	14.3	28.7	31.4	9.3	4.3	9.7	11.2	0.0 %
		嶺南	6.6	24.3	32.0	9.7	2.8	9.7	13.4	0.0 %
石川県	富山県	呉東	16.3	25.7	45.5	7.8	2.3	4.3	7.4	0.4 %
		呉西	14.2	28.1	48.5	6.6	1.1	5.1	5.8	0.4 %
	石川県	加賀	13.9	32.0	52.7	12.2	1.7	4.4	1.7	0.0 %
		能登	16.2	32.8	45.3	11.5	2.4	3.7	2.7	0.3 %
	福井県	嶺北	15.4	26.9	48.8	8.1	1.5	4.6	5.0	0.0 %
		嶺南	17.6	21.8	47.7	8.4	2.1	4.2	7.1	0.0 %
福井県	富山県	呉東	13.8	22.2	30.9	8.7	1.5	6.2	24.7	0.7 %
		呉西	12.1	23.1	32.6	9.9	1.5	6.6	21.6	0.7 %
	石川県	加賀	10.5	42.2	38.1	7.6	1.6	6.7	6.0	1.0 %
		能登	12.3	31.5	35.6	8.2	2.4	7.5	11.0	0.3 %
	福井県	嶺北	11.7	29.8	42.5	19.1	2.3	5.7	2.7	0.7 %
		嶺南	15.9	27.7	40.5	16.6	2.4	5.5	3.8	0.3 %

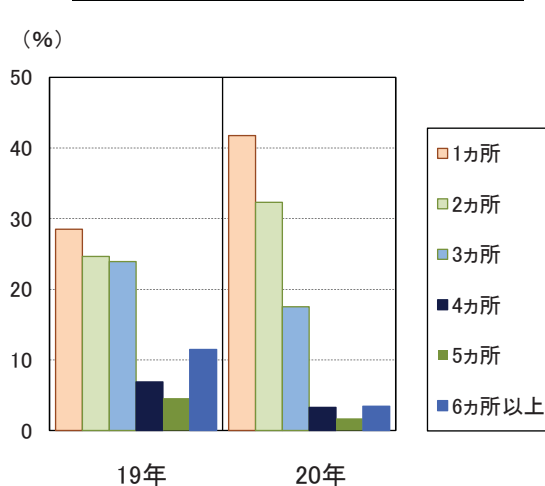
16. 家族との個人旅行が多い傾向

- 旅行のタイプ、同伴者では、各年齢層で家族との個人旅行が多く、こうした傾向は19年と大きく変わっていない。60歳以上の年齢層では、19年は団体・ツアーの利用者も一定数みられたが、20年のコロナ禍の状況において、団体・ツアーの利用が減少している。
- 1回当たりの訪問先数では、20年は、1カ所または2カ所のみ回ったとの回答が大きく増加した。

(図表16-1)旅行のタイプ、同伴者



(図表16-2)訪問先数(1回の旅行当たり)



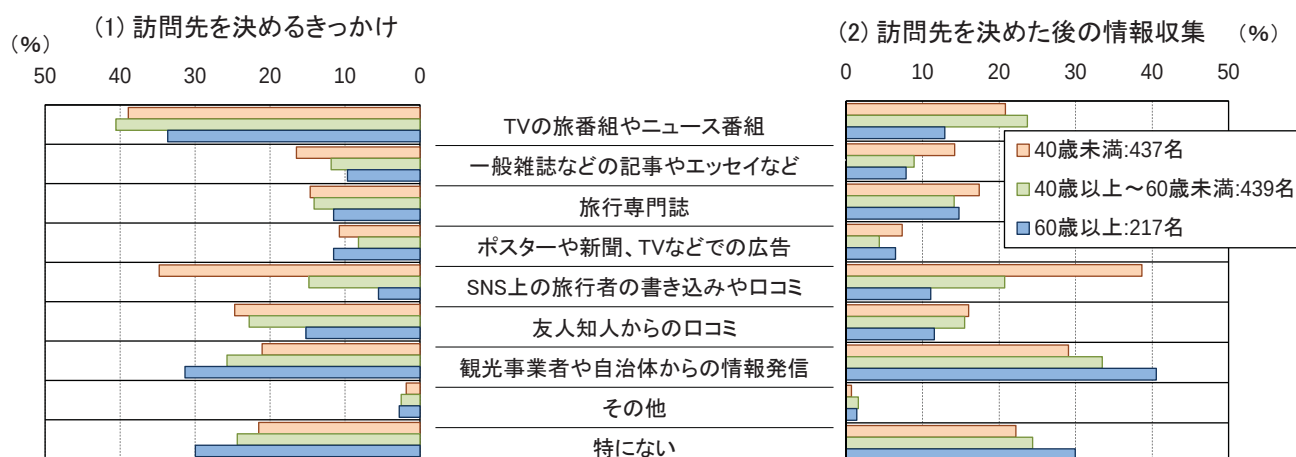
(備考) 1. 2020年は、5月末の緊急事態宣言解除後から10月まで間の6カ月
2. 北陸3県以外への旅行も含む、多いパターンを2つまで回答

(備考) 回答者数: 19年828名、20年582名

17. 訪問先を決めるきっかけとしては、TVの影響力が大きい

- 旅行に出かける際、訪問先を決めるきっかけとしては、世代を問わず、TVの旅番組やニュース番組が最も多かった。一方、広告については、きっかけ、情報収集のいずれにおいても、参考にしている人は限定的だった。
- 世代別では、情報源として、若い世代ではSNSの書き込みなどをあげる意見が多かった一方、60歳以上のシニア層は、観光事業者や自治体などの公式な情報発信を重視していることが分かる。訪問先を決めた後の情報収集でも同様の結果となった。

(図表17-1)観光、行楽に出かける際の情報源

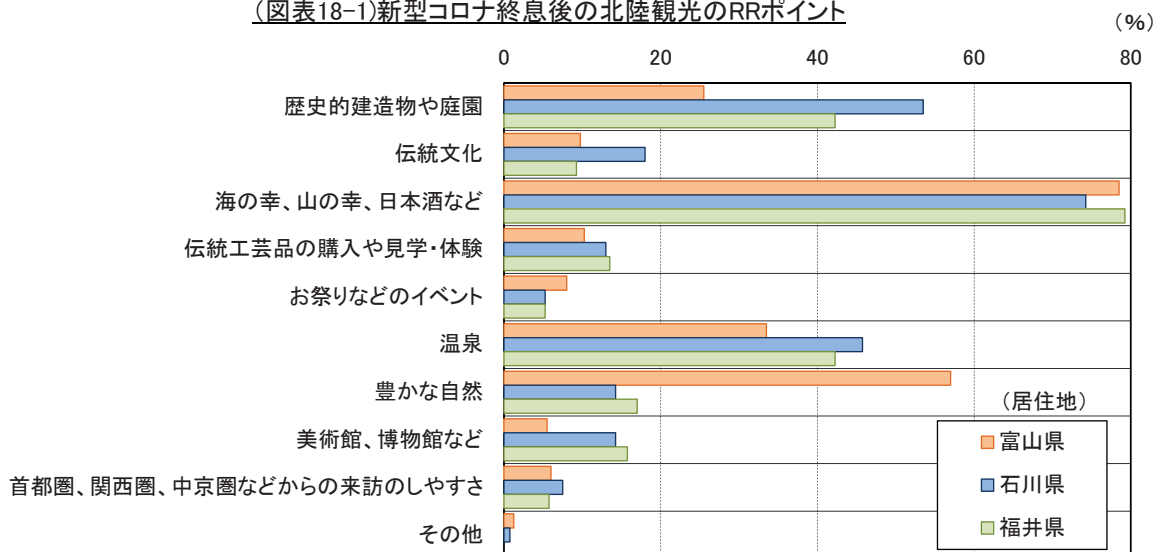


(備考) 総回答数1,093名(新型コロナに拘わらず、観光には出かけないと回答した人は集計対象から除いた)

18. 北陸観光の魅力は、「食」と意見が最も多い

- いずれ新型コロナが終息した時には、北陸以外からの観光客の来訪増加が期待される。北陸の魅力をPRするため、何が地元の魅力かを質問したところ、3県全てにおいて、海の幸、山の幸、日本酒などといった食文化をあげる意見が最も多かった。
- 県別では、兼六園などを擁する石川県や永平寺などを擁する福井県で、歴史的建造物や庭園との回答が多かった一方、立山黒部アルペンルートなどを擁する富山県では豊かな自然との回答が多くなった。

(図表18-1)新型コロナ終息後の北陸観光のRRポイント



(備考) 3つまでの複数回答、回答総数1,200名

＜コラム＞地域の魅力を再発見する取り組み：富山経済同友会「大人の遠足」

- 富山本拠の経済団体である富山経済同友会では、「地域創生委員会」（山野昌道委員長）が、①県外に行きにくくなっている今こそ富山を見直し、地域の魅力を再発見する、②地域の課題を見つけ、共有し、解決の方向性を探ることを目的とし、「大人の遠足」と称して、半日のフィールドワークを実施した。
- 具体的には、まず「富山へ会議で県外から訪れた友人に勧める半日観光」をテーマに委員からプランを公募し、27件の応募の中から7つのプランを選抜した。そのうえで、10月2日（金）にフィールドワークを開催、好天に恵まれる中、富山の経済人ら38名が、7班に分かれて実際に県内各地を訪れた。各プランの概要は下表の通りである。
- 実施後には良かった点や課題点などについてアンケートを取り、参加者からは、「富山に住んでいながら今まで知らなかった地域の魅力を再発見できた」や「何度も訪れているのに新たな“気づき”があった」などの感想が多数寄せられた。
- 今回の取り組み結果については、今後とりまとめのうえ、当会ホームページ(<http://www.doyukai.org/>)などで積極的な情報発信を行うとともに、地域創生に関する提言への活用を予定している。

（図表）大人の遠足・行程（7つのプラン） ※スタート地点は、すべて富山国際会議場（富山市大手町1-2）とした

1 岩瀬方面 1

スタート 歩 昼食：地元薬膳料理 歩 環水公園

歩 岩瀬まち歩き 歩 ガラス美術館

【写真①】

2 岩瀬方面 2

スタート 歩 昼食：富山湾鮎 歩 岩瀬まち歩き 歩

環水公園散策 歩 富山県美術館

【写真②】

3 呉羽方面

スタート 歩 昼食：地元食材を使った フレンチ 歩

歩 民俗民芸村 歩 環水公園

【写真③】

4 八尾方面

スタート 歩 昼食：地元人気店 もつ煮込みうどん 歩

八尾まち歩き 歩 富山県美術館

【写真④】

5 宇奈月方面

スタート 歩 昼食：ますずし弁当 / 黒薙温泉 歩

【写真⑤】

黒部川電気記念館 歩 富山駅

6 高岡方面

スタート 歩 富山城 歩 高岡駅 歩 昼食：地元人気店 イタリアン

歩 高岡まち歩き 歩 富山駅

【写真⑥】

7 上市方面

スタート 歩 大岩不動尊 歩 昼食：地元人気店 そうめん

歩 日石寺 歩 富山駅

【写真⑦】

歩：徒歩
路面電車
水上ライン
自転車
路線バス
JR・地鉄
あいの風
新幹線
タクシー
トロッコ



【写真①】 岩瀬の地酒を満喫



【写真②】 北前船廻船問屋森家を視察



【写真③】 シェアサイクルに乗って環水公園へ



【写真④】 おわらのまち八尾を散策



【写真⑤】 トロッコ電車に乗って秘湯 黒薙温泉へ



【写真⑥】 銅器のまち高岡を堪能



【写真⑦】 日石寺で滝行体験

（備考）富山経済同友会会報2020.11月No.298より作成



©Development Bank of Japan Inc. 2020

本資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、取引等を勧誘するものではありません。本資料は当行が信頼に足ると判断した情報に基づいて作成されていますが、当行はその正確性・確実性を保証するものではありません。本資料のご利用に際しましては、ご自身のご判断でなされますようお願い致します。本資料は著作物であり、著作権法に基づき保護されています。本資料の全文または一部を転載・複製する際は、著作権者の許諾が必要です。当行までご連絡下さい。著作権法の定めに従い引用・転載・複製する際には、必ず、『出所：日本政策投資銀行』と明記して下さい。

（お問い合わせ先）

株式会社日本政策投資銀行 北陸支店企画調査課・富山事務所

TEL : 076-221-3216

E-mail : hrinfo@dbj.jp